

# 2014 活動報告

Hondaの安全運転普及活動は45年目を迎えた。新たな3ヶ年計画のスタートにあたる今年度は「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」を方針と定め、「教育ソフトウェアの開発と導入」「普及活動の変革と進化」「進展国 二輪事故低減の実現」の3つの重点課題に取り組んだ。

## ① 教育ソフトウェアの開発と導入

### 「SAFETY MAP」の利用拡大に向けて

Hondaは、事故情報や急ブレーキ多発地点、生活者の皆様が持っている情報を「見える化」し、安全な街づくりに貢献するための基盤づくりとしてインターネット上に「SAFETY MAP」(8面参照)を公開している。これを危険箇所にご注意を払うということだけでなく、具体的な道路環境の改善につなげていく試みを今年度進めている。その1つとして、当紙4・5月号より「SAFETY FOCUS」という連載記事を設けた。

また、今後、JAF((一社)日本自動車連盟)埼玉支部と連携し活用を推進いただく予定である。さらに交通行政や識者の方々とも連携しながら、新たな利用拡大の研究・開発を進めていく予定である。



埼玉県では「SAFETY MAP」の情報をもとに路面表示の追加など道路改善を実施



CTBAは、約30km/h以下での前方車両との衝突の回避・軽減を低速域衝突軽減ブレーキで支援。前方に障害物がある状況で、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、急な発進を抑制する誤発進抑制機能(MT車を除く)も備えている。このCTBAをドライバーに正しく理解してもらうための安全運転教育プログラムを開発中

ホンダは「事故ゼロのモビリティ社会の実現」を「ヒト」「テクノロジー」「コミュニケーション」の3つの柱で取り組んでいる。その中で、事故軽減のテクノロジーを広く普及させることは重要であるが、一方でその機能を正しくお客様に伝えることも真の安全に向けて、とても重要なことであると考えている。初年度は、シティブレーキアクティブシステム(CTBA)を取り上げ、現在、安全運転教育プログラムとして、開発を進めている。危険を安全に体験する参加体験型の実践教育という手法で、今後ホンダの交通安全センターをはじめ、様々な場で提供できるように展開していく予定である。

### 車両安全技術からの実践教育の開発と導入

### 高齢者(歩行者・自転車)の教育ソフトウェア開発



全国5ヵ所で開催された各地域の交通指導員の方々とはHondaによる「指導員教材研究会」

Hondaは、高齢者向けの教材を各地域の交通指導員の方々に提供している。そして、実際に高齢者の皆様に交通安全を伝えている地域の交通指導員の方々からの意見や現在の交通環境、事故形態を踏まえ、新たな教材開発に取り組んでいる。

今年は各地域の交通指導員の方々に、新たな教材開発に向け、それぞれのテーマに沿って意見を出し合っていたり場を設けた。今後も関係する皆様と連携した活動を継続的に進めていく予定である。

## ② 普及活動の変革と進化

### 地域に密着した販売会社の交通安全活動への支援

今年度はHonda Cars(四輪販売会社)との連携を強化し、Honda Cars各社の交通安全活動による地域貢献の支援を進めている。これは今後、普及活動の場と機会の拡大を図っていくための重要な取組みである。

Honda Cars 若狭には「あやとりひよこ編」の指導ノウハウを伝えるための研修を実施。Honda Cars 若狭では、地域の子どもへの交通安全教育に「あやとりひよこ編」を独自にアレンジしたうえで活用していくことを予定している



運転復帰をめざすリハビリテーション中の方をサポートする「自操安全運転プログラム」

今年度は「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト」(6面参照)や「自操安全運転プログラム」(5面参照)の提供だけでなく、運転復帰プロセス全体に対しての支援をスタートさせた。また、障がいをお持ちの方だけでなく、高齢化の進展に伴い、リハビリセンターや病院、デイケアサービスへのクルマによる送迎も増えていることから、こうした移送時における安心安全の確保にも今後、積極的に取り組んでいく。



福祉に関わる運転を担う方々を対象にした「移送安全運転教育プログラム」

### 障がいをお持ちの方を対象にした安全運転の取組み

### 交通安全の普及拡大に向けた場と機会の創出



ショッピングモールや大規模レクリエーション施設などで交通安全教室を開催するなど、子どもやその家族に安全意識を高めてもらうための教育を行った

普及活動の場と機会の拡大に向けては、新たなチャレンジも進めている。それは他業種との連携による交通安全教室の開催である。今年度は初の試みとして、大規模レクリエーション施設やショッピングモールと連携し、実施。これらの結果を踏まえ、地域に根ざした活動として来年度の取組みに反映していく予定である。



すべての席でのシートベルト着用の重要性などを体験を通して伝える

## ③ 進展国 二輪事故低減の実現

### 二輪車事故が急増中のインドへの支援

今年度は昨年度に引き続き、インドへの支援を進めている。インドは二輪車の事故が急増しており、その市場規模の大きさからも現在最も事故低減に取り組む必要がある国の一つである。

昨年度は教材などの提供や中期計画の立案を支援し、今年度は交通安全の指導者育成の支援を進めている。



インドのHonda Motorcycle & Scooter Indiaは、交通安全センターレイノー埼玉で指導者となるチーフインストラクターを3名養成